

2003年1月1日発行
発行人：堺 充廣
発行所：神戸市中央区海岸通8
神港ビルヂング5階509
TEL/FAX：078-393-0050
(TEL・FAXが同じになりました。)
E-Mail：kobekeio@dream.ocn.ne.jp
URL：<http://www.kobekeio.org/>
編集：堀 友子・八巻 啓郎

～ 新年会長ご挨拶 ～

神戸慶應倶楽部会長 **和田憲昌**

新年明けましておめでとうございます。



昨年より、上島康男前会長の後任として、伝統ある神戸慶應倶楽部の会長を勤めさせていただいております。日々を重ねるごとに、その重責に身の引き締まる思いでございます。

本年も微力ながら全力で、倶楽部活性化と倶楽部の新たな文化創出のために邁進したいと考えております。何とぞ、ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

さて、BRB '02.8月号に高田育明君より『「慶應義塾大学一人勝ち」で大丈夫?』という寄稿がございました。“絶頂期と思われる頃には、既に「凋落の芽」が忍び寄っている”というご趣旨でありましたが、誠に的を得た警鐘であり、同志を得た思いでございます。

様々な場所で、新生日本を創出しようと、日夜苦吟されておられる塾出身の日本のリーダーをバックアップするためにも、我々一人一人の社中が、近代国家創出に啓蒙された塾祖福澤諭吉先生の遺志を受け継ぎ、21世紀の日本を新たに創り上げるのは将にこの時であるという認識と覚悟が必要であると考えております。

諸兄の本年のご活躍とご精進を願ってやみませぬ。

最後に小生が他誌に寄稿いたしました粗文を記し、新年のご挨拶とさせていただきます。

改革とは、古い世代が新たに敷く古い軌道である。新しい世代の人たちを、決して古い軌道に乗せるべきではない。新たなフロンティアを拓く軌道は、新世代自らが白紙の状態を描くべきである。55年体制の鎧を纏った古い世代は、残された活力の全てをもって、新しい世代を支え、新軌道構築の生みの苦しみを和らげる役に徹したい。

平成 15 年新春



～平成 15 年新年賀詞交歓会のご案内～

日時は1月6日(月)午前11時から午後5時

集合時間、解散時間はフリーです。

ご都合のよろしい時間に適宜お集まりいただき、共に新年を祝ってください。



～ 1 月例会のご案内 ～

平成 15 年最初の例会は、1月22日(水)6時30分から倶楽部ルームにて、安永利啓会員(昭40商・45商博・現京都産業大学経営学部長)に、「2003年、日本、関西そして神戸の経済状況」と題してお話をさせていただきます。

そのあと倶楽部から徒歩5分の『嵐山(らんざん)』(場所：中央区三ノ宮町1丁目4-12)に移動して、懇親会を7時半から始めます。生田筋のミュンヘン大使館向かい、上島ビルの西隣の角です。(Tel：078 325 8708)

会費：男女とも 6,000 円

元日について

森本 周子（昭二十五文）

七十年以上も日本の国に生を享けてい
るにもかかわらず、特に印象に残るお正月
がないので、最近読んだ夏目漱石の「永日
小品」の「元日」の冒頭の文を引用してみ
る。

「雑煮を食って書齋に引きとると、しば
らくして三、四人が来た。いずれも若い男
であるその内のひとりがフロックを着て
いる。着なれない所為か、メルトンに対し
て妙に遠慮する傾きがある。あとのものは
皆和服で、かつ不断着のままだから頓と正
月らしくない。この連中がフロックを眺め
てやあーやあと一つずつ云った。みんな驚
いた証拠である。自分も一番あとで、やあ
と云った。」

右の文中、フロック、メルトンとゆう単
語が視覚的に戦後、物資窮乏の折から、亡
き祖父の正装であったフロックコートや、
メルトン（フロックより少し布地がうすい）
のコートをつぶして、私の大学時代の一
張羅として更生させた時の記憶が鮮明によ
みがえった。

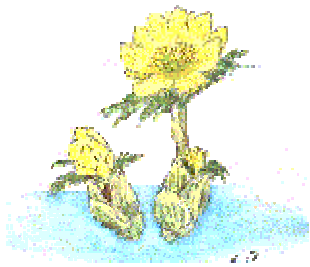
ちなみに漱石の文中、着慣れないフロ
ックでからかわれている男は森田草平であ
る。

蛇足ながら、西宮の古書店で森田たま著
（前述の草平氏とは関係ない）の随筆歳時
記を求めた。一月、踊りぞめの描写があり、
芸を披露する破目になった二十一才のた
まが風呂敷包みから着替えを取り出し、

「一人で鏡をみないで、うまく結べるか
らと、ぎゅっと帯びのたれをひき抜いてあ
ると、突然うしろから声がして『あたし締
めてあげるわ』と云った人があつ
た。……あたたかい手であつた。『ハ
イ、できました』……とその手がほ
んと私の背中をたたいた。……くる
りと向きなほつた私は、初めてその人を見
て、あつと驚いた。私の眼の前に、にこり
として起つてゐたのは、思いもよらぬ夏目
先生の奥さんだったのである。」と書かれ
ていた。私の娘時代戦争中だったから、お
正月に着物を着た記憶は、ほんの二、三回
しかなかった。

私にとって元日の目出たさを感じさせ
る調べは、三番叟である。特に、女学校以
来の親友K子さんから、テープに吹き込ん
だものを贈られて、自分の気が向く時に一
人でかけて楽しんでいる。

K子さんは、幼い頃から、長唄、三味線を
習い、成人後、杵屋五三郎氏（人間国宝）に師
事していたように記憶する。美人薄命とい
うのが当たっていると、つくづく世の無情を歎
きたくなるのだが、早くに御主人を亡くさ
れ、私が五十代の頃は可成りひんぱんに上京
し、彼女に出会う度に、我が身の肉付きが日
増しによくなる？のを嘆くと、「あら、貴女
は幸せだからよ」と云われて、返す言葉がな
かった。六十年もつきあっているのに、最初
の出会いと全く変わらない友情がつづいて
いるのは、不思議な位である。友達なればこ
その忠告もしてくれるし、私は、両親共、早
く亡くなったので、親身になっての言葉は何
より有り難い。



～ 12 月例会レポート ～

稲田 豊 (昭 53 商)

12 月度の神戸慶応倶楽部例会に始めて参加させていただいた。年忘れのクリスマス例会であり、さまざまな催しが企画された。ウッチーこと内山副幹事長の名司会に始まり、和田会長の心温まる



挨拶、合掌先輩と素晴らしい「ホワイトクリスマス」をみんなで合唱し思い出に残るひとコマ、大変うれしくなった。

圧倒されたのは、

内山先輩のオークションでの采配。なんとバイタリティとウィットに富む楽しい催しであったことか。とにかく、世相は暗く景気もデフレのなかで、来年は紙をたべる「末年」を迎えて、お金を使う楽しさをみんなで楽しめたことは、最近にない出来事である。

また、我が神戸慶応倶楽部における人材の豊富さに圧倒され、今後もこの楽しさを求めて、例会などの行事にはできるだけ参



加しようと思意した次第である。この閉塞した時代にあって、明るく生きていけるのは、やはりハートではなかろうか。慶應義塾の先輩後輩ともっと深く交流することを、来年の課題としておこう。



(中央に立っているのが小生である。)

さて、始めて登場するので、ついでに筆をとりたい。今年とはとにかく電力会社で営業を担当している小生にとっては、あまり芳しくない出来事が多かった。9 月の東京電力の原子力検査での隠蔽事件に始まり、年末には、北朝鮮の「核凍結解除宣言」。いかにも原子力が「世の中の悪」のごとく世間に印象づけられたことか。東電の事件は、隠す体質が問題であり、原子力そのものが悪いとの風潮はおかしい。唯一の被爆国であり、エネルギー自給率が低く、かつ勤勉な国民性が自慢である我国において、原子力の平和利用は欠かすことができない。また、国際公約である京都議定書の公約である CO2 問題の解決のためにも原子力は極めてベーシックなものである。

ところで、米国のブッシュは、どうしてもフセインをやっつけたいみたいだ。イラク攻撃が始まって、政府は「石油危機は起こらない」といつている。これは、日本の石油依存度が、第一次石油危機の 77%から現在は 52%まで下がっていることに加え、日本の石油備蓄も官民合わせて、現在は 174 日もあること、IEA (国際エネルギー機関) による危機時の石油安定供給の仕組みができていくことが大きな理由である。これらの脱石油政策のベースは、とりもなおさず原子力をはじめとする石油代替電源の導入・拡大と民間における省エネルギー努力の結果である。

2003 年は、はたしてどんな年になるだろうか。米国とイラクとの戦争で始まるか、それとも和平か。民間人として、自国のエネルギーを自給することから安全保障が始まることを肝に銘じたいものだ。これからも、原子力の安全運転に努めつつ、「油断 (= オイルショック) の備え」を点検していきたい。

毎月の例会のアルバムを、倶楽部ルームに掲示しております。ご希望の方には、プリントいたします。(無料)

お気軽にお立ち寄りください。(開室時間は通常は 11 時から 3 時までですが、来室の前にお電話でご確認ください。土・日は休みです。)

会員だより

～東京三田倶楽部との交流会～

芦原直哉 (昭 50 経)

東京三田倶楽部との交流会が 11 月 22・23 日に
行われました。

今回は 22 日に廣野 G C で対抗戦を行い、春の雪
辱に燃えたもののネット平均 89.8 対 91.4 で敢え



無く返り討ちに
あいました。し
かしながら個人
戦では廣野のメン
バーである森
本富夫さんが優
勝され一矢を報
いました。表彰
式と交流会は倶

楽部ルームに集まった後、十五番館の 2 階を借り
切って行いました。ご都合でゴルフをされなかつ
た皆さんも加わり大変盛り上がりしました。

翌日はオリエンタル G C で連チャンのゴルフで
更に盛り上がり、今日も泊まるかという声まで
出ましたが、皆さん神戸を惜しむように夜遅くの
新幹線で無事に帰路に着かれました。

来春は 3 月 26 日(水)に名門相模 C C で対抗戦
を行います。三度目の正直で勝ちたいと思います
ので奮ってご参加ください。

年末恒例といえば・・・

横田 洋子 (昭 49 文)

そう！「第九」ですね。

神戸慶應倶楽部会員でもある藤岡幸夫氏の指揮・
京都市交響楽団・大阪新音フロイデ合唱団の「ベ
ートーヴェン第九交響曲の夕べ」が 12 月 12 日(木)
ザ・シンフォニーホールであり行ってきました。

皆様もご存知の様に、ベートーヴェンの平和へ
のメッセージが込められた第九。正式には“交響
曲第 9 番二短調作品 125「合唱付き」”はベートー
ヴェンが若き日に感動したシラーの詩「歡喜に寄
せて」を合唱として取り入れた作品。

藤岡氏のパワフルな指揮に魅入られて、楽団も
合唱団も観客も一つになった素晴らしいひと時で
した。お聞きしたところによると藤岡氏は風邪で
体調を崩され 38 度の発熱を押しての公演でしたと
か・・・。そんな事は全く感じられない指揮と、演
奏後のさわやかな笑顔に脱帽！

帰路は、暖かな心に冬の風が心地よく、気が付け
ば

～鼻歌まじり。来年もがんばるゾ



同好会だより

PC 同好会 “ P C よもやま話 ”

フォントトラブルへの対処方法

Windows9x/Me の OS を搭載した PC で、以下の
ようなフォントトラブルに遭遇したことはありませんか？

- A：新しくフォントをインストールできない。
- B：ウィンドウ右上の最大化や最小化ボタンが数字などに置き換わる。
- C：アプリケーションで利用できるフォント数が減っている。
- D：新しくフォントをインストールしても、アプリケーションのフォントリストに反映されない。
- E：ドロップダウンリストの▼やスクロールバーの矢印が数字やおかしな文字になる。
- F：フォントが横向きになる。

このようなフォントトラブルの多くはフォント
キャッシュファイル (ttfCache) の破損より発生
します。ttfCache ファイルは削除しても、次回起
動後に再作成されるので、あっさり問題を解消で
きます。

[スタート] - [検索] - [ファイルやフォルダ] を
クリックします。

名前に ttfCache と記入し、ブートドライブを
対象に「検索開始」ボタンをクリックします。

検索された ttfCache ファイルを削除します。

[スタート] - [Windows の終了] で Windows
を再起動します。

これで問題解消！？

皆さん、お分かりいただけましたか？

一度、PC 同好会を覗いてみてください、毎月第 3
金曜日 6 時半頃からやっております。(Murao)

ゴルフ同好会

新年初打ちゴルフ大会のご案内

日時：平成 15 年 1 月 17 日(金) 9：38 スタート

場所：芦屋カンツリー倶楽部

まだ余裕があります。参加ご希望の方は、1 月 7 日
までに下記まで直接お申し込みください。

近藤 正 (幹事)

金子家隆会員より

辰野芳之（昭42経）

『初めての関西生活、雑感』

昨年の夏、転勤に伴い単身赴任しました。

職場は淀屋橋、住まいは西宮門戸厄神です。

これを機に神戸慶応倶楽部に入会した新参者です。何とぞよろしくお導きのほどお願い申し上げます。

卒業と同時に現在の勤務先、関電工（関西電力に非ず東京電力の関連会社）に入社、以来異動はあってもずっと東京の自宅から通えましたが、2年間の水戸に続いての今回の単身生活です。

修学旅行以来の関西であり 関東人の小生にとっては、何かとカルチャーショックの日々なので、雑ばくながらその一端をご披露します。

生活文化（食）

1 関西は薄味。と聞いていた。塩分控えめにしたい小生にとって塩味は随分濃いように思う。色が薄いのは色彩感覚がデリケートなのかも？

2 刺身醤油が甘いので、いささが参る。せっかくの刺身がどうも…。

3 ごはんの炊き方は、概して柔らかい。米粒のもちもち感が不足…

生活習慣

1 エスカレーターの歩行用サイドが、関西は左、関東は右

2 ラッシュ時の電車、無理せず並んで次を待つので、詰め込み乗車がしづらい。

歴史の厚み

1 邪馬台国（3C前半）の所在は??歴史ファンの関心事ですが、どうやら畿内説が有力になってきたと思う

2 神戸の地図で、鶴越（ひよどりごえ）町を見つけて感激。あの軍事の天才義経の戦跡（1184）がしっかり残っているのだ。

3 戦前、戦後の戦を、京都では応仁の乱（1467～77）と言うのは本当ですか？ 西陣の地名が残る位だから、本当なのだろう。

4 世界に先駆けて、先物取引を始めたのは大阪の米会所とのこと。

次は朝藤 洋会員（昭41法）にお願いします。

このコーナーは、リレー式に輪をつないでいくものです。前走者から指名された方は、快くお引き受けください。そして、輪を二重三重に広げていくではありませんか。

槌橋真美会員より

塚本明久（平9総）

『湘南藤沢キャンパスと私』

私は平成9年（1997）に総合政策学部を卒業して早もう5年がすぎました。卒業以来、三田キャンパスには足を踏み入れたことはあるのですが、湘南藤沢キャンパス（SFC）には、残念ながら足を向けておりません。ただ、SFCも数年前より「SFC三田会」も発足し、SFCの事務室にも「SFC卒業生連携担当」が設置され、卒業生関連の活動も活発化し、さらに11月23日には、SFCではじめて卒業生を対象としたイベント「ホームカミングデー」が開催されました。

私は仕事の都合で出席できませんでしたが、たまたま竹中金融・財政担当大臣が当日のイベントに出席者としてSFCの校舎でパネルディスカッションしている姿（竹中先生はSFC時代と全く変わらずのトークぶりでしたが）やキャンパスの様子が紹介され、それを偶々テレビでみることができました。テレビをみた直後急に、SFC時代のことが頭の中で走馬燈のごとくよみがえってきたのです。

とりわけこの季節になると、1年生の時、C言語のプログラミングを完成させねばならず、何日も遅くまで教室に残って友人と出会い語り合えたことが大きな思い出となっています。その名残として当時のメンバーとは今でも年1回必ず親交を温めているのです。彼らは現在私同様に仕事で全国各地に散らばっていますが、その地方に赴任しているメンバが順番で幹事をし、その居住地へ我々を招待することにして、それが今や5年目ですが、栃木・鎌倉・静岡・伊勢・金沢と毎年続けています。いつまで続くかわかりませんが、まだ塾生気分の抜けない正式登録もしていない、このもうひとつの「三田会」を神戸慶応倶楽部同様心のよりどころにして継続参加していきたいと思います。

次号は、廣川まもりさん（昭57政）にバトンをお渡しいたします。

会員の輪をひろげよう！

